

Colony Tokyo コロニーとうきょう

Vol.

131号

2004 (平成16) 年
1月1日発行



社会福祉法人 東京コロニー

〒165-0023

東京都中野区江原町2-6-7

TEL 03-3952-6166

FAX 03-5952-6664

<http://www.tocolo.or.jp/>

(法人本部 事務局)

賀正



アートビリティギャラリー 8 作者 有銘 寛秀 『日の出』(詳しくは13頁をご覧ください。)

トピックス

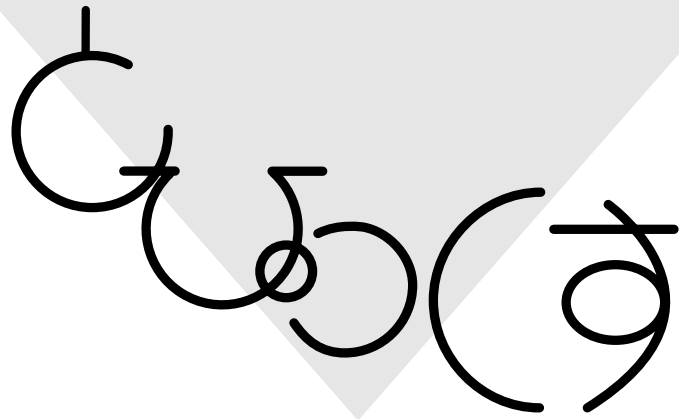
法人の主な動きから

2003年度 上半期総括事業報告書

本の紹介

アートビリティギャラリー

法人本部・コロニー印刷所・IT事業本部・デジタルメディアセンター・アートビリティ・トーコロ情報処理センター機能開発室(〒165-0023 中野区江原町2-6-7)・葛飾福祉工場(〒125-0042 葛飾区金町2-8-20)・立石工場(〒124-0012 葛飾区立石8-50-1)・トーコロ情報処理センター事業部(〒162-0051 新宿区西早稲田2-2-8)・コロニー東村山印刷所・コロニー東村山・コロニー東村山第二印刷所(〒189-0001 東村山市秋津町2-22-9)・大田福祉工場(〒143-0015 大田区大森西2-22-26)・浜松町工場(〒105-0022 港区海岸1-4-17)・トーコロ青葉ワークセンター・トーコロ青葉第二ワークセンター・トーコロ青葉第三ワークセンター(〒189-0002 東村山市青葉町2-39-10)・国分寺戸倉寮(〒185-0003 国分寺市戸倉1-21-9)・東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮(〒203-0004 東久留米市氷川台2-31-22)



中野工場

第8回コロニーまつり開催

中野工場では去る10月11日(土)、第8回コロニーまつりを開催しました。

工場の一部移転による空きスペースがあった昨年に比べ、今年は狭い場所であまりやれるか心配でしたが、何とか開催にこぎつけました。昨年好評だったオリジナルカレンダー、おまつりの定番やきそばとフランクフルト、ミニフリーマーケット、ゲームで獲得する駄菓子等のコーナーも。そして今年は何と言ってもフタバベーカリーのパンの販売です。用意した120個ほどのパンは飛ぶように売れ、追加するほどでした。また、手作りパン教室も開催し、自分で実際にパンを作ってみることができ、みんな感激していたようです。

食堂を会場にコロニー演芸場をしたで、



利用者が販売を担当し、完売しました。(手作りパン)



落語家：林家源平さん

プロの落語(林家源平さん)とバンド(ぽかぽかさん)、そしてわれらがコロニーバンドが盛り上げてくれました。

毎年、江古田地域まつりの一環として開催しているコロニーまつりも、地域の方に少しずつ広がっているようで、今年は昨年よりたくさんのご来場をいただきました。皆さんありがとうございます。来年もまた、お会いしましょう。

(総務部長 星 忍)

東村山工場

共に燃やそう みんなの元気 第17回東村山車いす ミニマラソン

雨模様の前日の天気とうそのような好天のもと「第17回東村山車いすミニマラソン」が10月19日に開催されました。

障害のある人もない人もいっしょに同じ場所で、同じ体験を共有できる機会として、また普段車いすに触れる機会のない子供さんたちにも車いすを身近に体験できる機会として毎年開催されてきましたが、今年は「もっと参加する人どうしの交流を深めよう。」と実行委員会でアイデアを出し合ってきました。

初めての試みは「車いすダンス」。「美住フォークダンスサークル」の皆さんのご協力で車いすに乗りながらでも出来るダンスで楽しみました。また去年は2種目のみの交流ゲームも1種目ふやしました。応援団もグッツを大増強し、今まで以上にパワーアップした応援が繰り広げられました。

車いすミニマラソンは東村山市社会福祉協議会、福祉事業センター、そしてコロニー東村山印刷所の3団体が共催しています。これらの団体



からの何名かの代表者、地域の皆さん、学生さんのボランティアで実行委員会を組織し、5月から準備を進めてきました。

参加人数は競技参加者150名、ボランティア142名と残念ながら例年よりも少なかったのですが、来年はもっと多くの人に参加してもらえ工夫をすることが実行委員会の課題です。

最後に当日参加された選手の皆さん、実行委員会の皆さんにお疲れさまでした。

（車いす）三ツ山ランニング実行委員
久保田光昭

IT事業本部

トータル情報処理センター

電話対応研修

今年4月から狛江市役所の電話交換業務も受託となり、調布二班の新人と共に10月4日（土）9:30～17:00 トータル情報処理センター 会議室にて講師に吉村政代先生（㈱総合コンサルティング）をお願いし研修を受けました。実際に2台の電話機を使用しての模擬研修では、交換の担当と市民になり、わざと困るような質問をしたり日頃の対応で気になっているようなことをたずねたりと緊張の中にも笑いのある研修でした。

一回一回吉村先生から具体的な言葉づかい、言い回し、クッション言葉の必要性等をアドバイスして頂きました。

※クッション言葉

大変恐れいりますが
お手数ですが
失礼ですが
申し訳ございませんが
あいにく・・・等

また、仕事をはじめる前に発声練習をしたり、活舌を良くするために早口言葉等、日頃から心がけておくという良いとお話でしたので実行しています。

※発声練習と活舌の練習

オエオエ

レロレロ

パラピルプルペロポロ 等

プロとしての応対と意識を持つということはこのような心掛けや決まりごとの確認も大切だということです。

※（朝のうちは）

おはようございます ○○市役所でございます

はい

失礼しました

○○へ変わります 等

「今、このような不況時、市民は公務員に対して今まで以上に厳しい見方をしている。役所も一般企業並みのサービスが求められている時代です。市民の方々、そして、役所の職員に対しても感動を与えることが必要である」というお話がありました。

※精神的なサービス

態度的なサービス
業務的なサービス
犠牲的なサービス

電話対応が私たちの仕事ですが、市民の方職員の方に本当に喜んでもらうには、私たちが気持ち良く仕事ができる環境作りも大切です。例えば、花を飾るとかきれいな物を飾る、職場内の整理整頓等です。また、職場でのコミュニケーションをとり、働きやすい場をどう作っていくかということも必要です。お互いに伝え合うことによりお互いが理解し合う

ということ。言葉でおきながら確認をしていくということです（相互補完性）

研修の中で何度となく先生がおっしゃっていた顧客満足CS（Customer Satisfaction）がこれからの仕事をしていく上での目標であると思います。

最後に研修を受けての感想をひとこと

○研修時は、緊張してしまい出来が悪かったが普段はもう少し上手に出来ていると思いました。

○プロフェッショナルな対応のテクニックをすべて有意義な研修でした。常に初心を忘れず研修したことを読み返し、市民の方々によるこんでいただける対応をしていきたいと思っています。

これからも、調布と狛江と連絡を取り合いさらに質を高めていきたいと思っています。

（調布2班班長 清水ひろみ）



飾工場

長崎二泊三日

10月23日、快晴の羽田を発った機体は長崎に近づくにつれ上下に揺れた。空港内で昼食後、平和記念公園へ。風は強かったが、小春日和の中を思い思いに散策、ホテルに。夕食は名物の卓袱料理で意外に和風で美味だった。宴会後はタクシー、又はロープウエーで稲佐山千万ドルの夜景見物。冷え込んだが皆々億万ドルの笑顔で旅の第一夜を楽しむ。翌日は佐世保へ向かう。西海のうみに緑の真綿を散らしたような大小の美しい島々を縫う九十九島クルーズは船内に車椅子対応のトイレ、エレベーターがありラウンジだけでなくデッキにも出て潮風に吹かれる。午後ハウステンボスへ。終日自由行動。グループで各施設のアトラクション体験に忙しい。夜は花火見物、ライトと音楽に、今は夢かの思い。帰京当日、新設のエレベーターでグラバー園へ。ちゃんぼんで昼食、めがね橋で旅の終りをしばし寛ぐ。不況時に有難い旅を感謝致します。終りに旅行を楽しみにしながら急逝された業務課・瀧上肇課長のご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

(業務課 田邊いち子)



億万ドルの笑顔（稲佐山夜景見物）



めがね橋

青葉ワークセンター

秋の一泊旅行

すっかり秋めいた10月2、3日、一泊旅行がおこなわれました。新年度がスタートした直後から実行委員会となる互助会では、いくつかのプラン設定後に全員に向けて旅行先希望のアンケートをおこない、その結果よこはま動物園ズーラシア見学と伊東温泉宿泊という基本プランを決定しました。7月には現地で各施設の下見をおこない、その後基本プランに更に三津浜シーパラダイスが付



け加わるという盛りだくさんのメニューでの実行となりました。当日の様子を少しご紹介いたしましょう。すばらしい晴天と自然環境に恵まれたズーラシアでは、さすが国内最大級の広さを誇るだけあり、さまざまな動物達が自然に近い環境の中で生息している様子がうかがえました。お目当てのオカピをはじめさまざまな珍しい動物を見ることが出来ました。ただ到着時間が予定を過ぎてしまったため、滞在時間が短くなってしまったことが悔やまれました。

その後宿泊地の伊東温泉、ホテル聚楽へ。♪みかんの花が咲いている 思い出の道 丘の道♪ ではじまる

童謡「みかんの花咲く丘」はこのホテルから見えた風景をもとにつくられたらしいのですが、そんな風情ともかわり無く、入浴後カラオケ大会の宴会を楽しみました。

2日目は、今度は水中のさかなと動物たち、イルカやアシカのショーが楽しい三津浜シーパラダイス見学です。愛嬌のあるラッコや巨大なシヤチの泳ぐ姿は新鮮で印象的でした。新鮮と言えば駿河湾のおいしいそのな魚たちの泳ぐ姿も見られ、更に新鮮なお刺身の昼食をとった後、帰りのコースに向かいました。

大きな事故等もなく、参加者のみなさんもうつとき日常を離れ、リフレッシュできたことと思います。今からまた、来年の旅行が楽しみです。

(営業課長 三和信二)

生活寮

東京都知的障害者生活寮 運営協議会の発足

2003年4月の支援費制度のスタートに伴い、知的障害者の地域生活の場である生活寮についても、障害者が自らサービスの提供主体を選択するだけの量とサービスの質の向上が求められています。東京都にお

いても「障害者地域生活支援緊急3か年プラン」に基づき、地域における居住の場である生活寮等を集中的に整備し、障害者が地域で自立して生活できる社会の構築を目指すことにしています。

こうしたことから、都内で生活寮（グループホーム）を運営する法人が一堂に会し、施策の動向、情報交換の機会を設けるとともに、サービスの質の向上を目的とした東京都知的障害者生活寮運営協議会を発足しました。東京都福祉局障害福祉部在宅福祉課地域生活支援係が事務局を担い、知的障害者の生活寮運営に実績をもつ法人が役員となり進めていくものです。

10月28日、都庁の42階にある特別会議室において、本協議会の総会が開催されました。都内で生活寮運営の事業を行う61法人のうち、95パーセント以上にあたる58法人が出席し、各法人がこの事業に対する問題意識を抱えてその場に集ったことが感じられました。

当法人の3つのグループホームも、これらの法人と情報交換しつつ、入居者の皆さんにとって居心地のよい場所であるよう、運営改善に努力していきたいと思っています。

(福祉事業本部長 加藤留美子)

大田工場

11月3日 大田福祉工場にて 恒例の「コロニーフェスティバル大田」が開催されました

■雨！

刻々変わる天気予報。それでも昼までは降らないと言っている雨が、朝一番から降り出してしまいました。急遽、バザー会場と売店を宿舍内へ設営変更。予定していた中央舞台のビッグバンド、沖縄民謡の二組の演奏をキャンセル。

■にもかかわらず、続々の来場

悪天候で入場がなくなるのではないかと心配をよそに、門前には開場を待つ来場者の列ができました。開始まもなく、宿舍の狭い廊下は人でいっぱい。雨がやむと、中庭のテント前に並べたテーブルは、やきそばや豚汁を囲む家族連れで埋まりました。工場を退職して地域で暮らしているOBの方、1年に一度遠くから足を運ばれる方々も、つぎつぎといらっしゃいました。案内状の発送が遅れたのを心配して、メールを下さった方もありました。

2時を回ると、再び雨足が強くなりましたが、恒例のビンゴ大会まで、多くの来場者が残って参加されました。

終わってみれば、バザー、模擬店、売店、みな健闘していました。今回初めての試みである「フタバベーカーリー」のパン販売も、総務のみなさんの活躍で完売に至ったようです。

■たかが祭、されど祭

マンネリと言えなくもない例年の行事としてのフェスティバル。仕事の合間を縫っての準備の中では「何でこんな面倒を」と思いますが、ただ年1回だけでも、これだけの地域の方々と出会う場の意味は大きいことを感じます。もちろん、より望むべくは、ここから今一歩踏み出して、私たちが地域での交流を深めることも、求められているのかもしれない。流される日々の中で、それはとても困難ではあるのだけれど。

(製造部 茂野俊哉)



法人の主な動きから

中野工場 東村山工場が

新しい体制に変わりました。

これまでは中野工場、東村山工場それぞれに営業部門があり独自の営業活動をおこなってききましたが、11月1日からこれを改めコロニー印刷営業部の名のもと一つの組織にいたしました。コロニー印刷営業部には直接のお客様窓口として東村山営業所、中野営業所、浜松町営業所の3営業所をおき、統一のとれた無駄のない、しかも地域特性を生かしたお客様サービスを展開できるようにしました。

また、これまで蓄積してきたさまざまなサービスを縦横に組み合わせ、お客さまのご要望に適合した提案をおこなうことができるよう、事業推進部を新たにスタートさせました。アートビリティ（旧、障害者アートバンク）もこの新しい部署に所属することになり、営業システム系のメンバーに従来のアートビリティ事務局スタッフを加えたり名のグループ

で活動していくことになりました。

昨年10月に中野、東村山両工場の印刷製本部門を一本化しましたが、11月1日からは両工場のDTP部門も一つの組織にし、製造部全体を一つの工場として管理できる組織に変更しました。今後も事務部門の相互乗り入れなどをすすめ、効率化をはかっていきます。

平行して施設としての機能を高めるために利用者サポート部門を一本化し、従来の工場単位、施設ごとの利用者支援の枠を超えて、共通の考え方を基本において、利用者個別にきめこまやかなサポートができる体制とするための準備を進めています。

（社会就労事業本部長 武者明彦）



「バーチャル工房」

（平成16年度厚生労働省予算概算要求事業）への期待

厚生労働省発表の次年度予算要求のなかで、ITを活用した障害者の職業自立を推進する施策が目立ちます。中でも、「バーチャル工房への支援」という記載は、名称の面白さもあって多くの方に注目されています。

もともとこの事業案は、わたくしどももメンバーとなっている厚生労働省の研究会から考案されたものであり、事前に職能開発室の活動についてもヒアリングをしていたので、構成されたものです。したがって、わたくしどもの事業に非常に近い形の支援プランというのが正直な感想であり、こうした機能にスポットが当たる時代になったということは心強い限りです。

単年度ということではバーチャル工房として手をあげることには不安の声も聞こえてきますが、わたくしどもとしてはまずはこれを前向きに試行し、その効果を明確にしていく責任があるのではないかと考えてます。

■バーチャル工房支援事業（要求額：237百万円）事業概要

○重度障害者在宅就労促進事業

在宅の障害者に対して情報機器やインターネットを活用する能力開発に加え、在宅就労に向けての支援などを行う。

- ・情報機器の貸与
- ・企業からの仕事の受注、配分
- ・実際の作業を教材とした技術指導
- ・仕事の進め方についての相談
- ・作業環境や機器等の相談
- ・職業生活を維持することの相談

○在宅就労支援事業者への支援

障害者の在宅就労を推進している機関に重度障害者在宅就労指導員を配置し、必要な支援を行う。

- ・バーチャル工房への技術指導・支援
- （技術研修の実施、技術習得や仕事確保の相談、技術水準についての評価・指導等）
- ・自立した在宅障害者に対する就業継続のための各種相談・支援

（IT事業本部 職能開発室）

課長 堀込 真理子

（年末の内示では、残念ながら予算化が見送られてしまいました。が、今後の動きを期待しつつ見ていきたいと思っています。）

事務局

スマート・シンプル・コンパクト 利用者支援の職場に、必携のソフト！ 「サポート2」の紹介

コロニー中野工場のケースワーカーとして新たな仕事が始まった1年後に、ケースワーカーにとって必需品ともいえる記録作成・活用ツール「ケース・サポート・システム」を開発しました（詳細は「コロニーとうきょう」Vol.118・119合併号をご覧ください）。以来3年半、本システムをメモ帳と鉛筆の代用として、私の「助っ人」としてその威力を発揮してくれています。

あいまいな記憶ではなく確かな記録をもとに支援や問合せ、会議に望むことができます。たかが記録、されど記録です。毎日繰り返し記述される記録をどのような視点で捉え表現するのか、記載される事実と考察から支援のありようが見えてきます。

このシステムはすでに北海道から沖縄まで多くの施設で使われていますが、さらに広めていくために解説書を作成しました。解説書をつくるにあたり、いくつか改良もしています。使う人を限定していないことから汎用的に項目を設

定できるようにしました。また、支援費制度に対応した項目を付加（ただし、障害関係以外でも利用できる設定です）。複数の支援者が記録をつける場合にも対応、そして

検索や記録の操作性も高めました。このようにしてできた「ケース・サポート・システム」の改訂版が、今回解説書付きで発売された「サポート2」です。

今後の当面の計画として、以下のことを予定しています。

- ①「サポート2」を広めていくために講習会を開催する。また、デモをしながら見て触って体験してもらえよう機会をつくる
- ②比較的小規模の施設や団体向け

の「サポート3」の開発を考える
③ネットワーク対応に充分応えられるシステムができるかを研究する

より良い記録活用ツールとして皆様のお役に立てることができればと思っていますので、問合せやご質問、ご意見をいただければ幸いです。

（コロニー印刷所）
ケースワーカー 小川弘子



CD-ROM付き 7000円＋税
(販売 筒井書房 tel03-3993-5545
fax03-3993-7177)

「第15回アートビリティ大賞式典」開催

昨年の11月7日（金）、日本財団ビル（港区赤坂）において「第15回アートビリティ大賞式典」が開催されました。大賞を受賞された秦美紀子さんをはじめ、各賞受賞作家やユーザーの皆さまなど約50名の方々にご列席いただき、15回の節目にふさわしい盛会となりました。

アートビリティ事務局は従来のIT事業本部内から社会就労事業本部内へと籍を移すこととなり、現在はその移行期間にあります。この式典においても新代表となった武者常務理事より、組織改編による新体制の説明、および既存事業の発展や、登録作家との新たなパートナーシップの構築についての所信表明がありました。会場では登録作家とユーザーの皆さまとの歓談の場面が随所に見られ、また、コロニーのスタッフもそれらに加わり、とても賑やかで有意義な式典となりました。今回は特に営業担当の方々によるおもてなしや、各事業所から集まった運営スタッ

フのスムーズな進行が、受賞作家をはじめ皆さまから好評をいただき、コロニー全体として、受賞者へのお祝いや日頃お世話になっている感謝



の気持ちを伝えることができたように思われます。

事務局としても、今回の式典を機に、より一層のご支援をいただければ、日々の研鑽に努めていきたいと思っています。

（アートビリティ事務局 吉田 卓史）



大賞を受賞した秦美紀子さん

随筆「私の歩んだ道」

調名誉会長が執筆されました

当法人の創設から経営にかかわり、永年にわたり事業推進に全力をそそいでこられた調一興名誉会長が、「社会福祉研究」第

88号（平成15年10月）（財）鉄道弘済会発行）に、随想「私の実践・研究を振り返って「私の歩んだ道」を執筆されました。日本の障害分野においても重要な役割を果たしてこられた42年間の歩みを、東京コロニーの創設時の苦労から、法改正、福祉工場制度化など、語りきれない多くの出来事を密度濃く書かれています。

調会長は、2001年6月に理事長職を退任されてからは、入院、手術と療養の日々を過ごされていましたが、体調の回復と共に、今回の執筆依頼を受け、久々の執筆活動をされたものです。

12月1日に、調会長の喜寿をお祝いする会が、呼びかけ人の方々の主催でひらかれました。全国から、共に闘ってきた仲間も含め約120人の方々が会場に集まり、なごやかな雰囲気の中、久々の再会を喜びつつ、心おきなく祝う時がもたれましたことも、併せてご報告させていただきます。

二〇〇三年度 上半期総括事業報告書

1、総括

本年4月より、これまでの「措置制度」から「支援費制度」へ移行し、授産施設と施設利用者の関係は、法人の代表者と利用者との個々の利用契約によるものとなりました。また、同じく本年4月から会計についても、「新会計基準・授産会計基準」によるものとなり、全事業所について新会計による会計処理に移行しました。このように、社会福祉基礎構造改革に関する一連の施策が本年度よりいよいよ本格的にスタートし、これまでの施設ごとの経営から法人単位での経営が求められることとなっています。

前年度における当法人の理事3名を委員とする「東京コロニーの運営に関するあり方検討会」の提言により、福祉諸制度の変革に向けて組織の枠組みである事業本部制の見直しを行い、法人としての運営の考え方を整理し、本年度より4つの事業本部に移行し、運営を開始しました。事業所単位の運営から事業本部ごとの運営へ移行させ、事業本部ごとに経営のあり方に整合性をつけたものとし、事業本部ごとには可能な限り所属する従業員の処遇の均一化を目指した運営を進めることとしてい

ます。その第一段階として社会就労事業本部においては、中野工場と東村山工場の一体運営を図るべく本年11月1日付で営業・製造部門を統合することとし、その準備を行いました。また、来年度を目前に青葉ワークセンターも含めた総務部門の統合について検討に入りました。

長年にわたる不況や産業構造の改革により、当法人の主力事業である印刷業は依然として厳しい経営状況にあります。前年度にコロニー東村山第二印刷所を開設しその一部において印刷事業の統合化および再編成を実施しました。本年度は、事業再建に向けてより一層統合化等に取り組むと共に最新設備の稼働率向上の為に努力を行うこととしています。

情報処理事業は、入力部門で確実な加工高を得る一方、ネット化社会に因應するより先進的な分野に踏み込んだ事業展開を推進するとともに、将来に亘る経営の安定化やこれらの技術を生かした役割発揮ができるよう事業の一部見直しに着手しました。

縫製・製袋・防災・安全用品等製造販売事業は防災指定地域の見直し等の影響もあり、売上増の中で黒字

基調で推移していますが、下半期に向けては製袋部門の受注対策を実施し、本年度はさらにその改善に目処をつけるべく事業を推進することとしています。

メールサービス事業は、地域における営業活動等、本年度も事業経営の活性化をはかり、経営的には一定の成果が見られるものとなっています。

生活施設は、前年度より東久留米氷川台寮（第一、第二合計定員12名）を事業開始し、国分寺戸倉寮と合わせ合計16名定員の規模となっていますが、その運営を軌道に乗せるための努力を継続している状況にあります。下半期に向けては、これらの安定化とともに知的障害者地域生活援助事業（グループホーム）としての福祉的支援をさらに充実させていく予定です。

当法人の施設が所在する基礎自治体での福祉ニーズに因應する取組みについては、その要請に基づき地域で開催される委員会等への参加を行っています。中野区での知的障害者通所授産施設の新設については協議の結果、取り止めることとしました。法人全体として、以上の事業の他、「教育研修の充実」や「苦情解決事

業」、「利用者支援マニュアル」の運用、さらには苦情解決第三者委員会による「提案月間」の実施、東京都の「福祉サービス第三者評価事業」の受審などにより、利用者支援の質的向上に取り組みつづけています。

また、社会福祉基礎構造改革に関する一連の施策に対応するため、法人としての情報収集や課題解決の場として、全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、日本障害者協議会、社団法人ゼンコロ等各種関係団体の活動に参加しました。

2、各事業の個別状況

(1) 法人本部

法人全体の全般的な諸問題の処理、各事業本部・事業所の運営を事業計画に沿って確実に行うために必要な実務を行いました。また、法人全体の事業運営の円滑化と中・長期的な課題を検討・推進するため、各事業本部長・事業所長や総務責任者（会議）と日常的に連携をとりながら活動しました。

前年度において「東京コロニーの運営のあり方に関する検討会」から提起された課題については、法人本部における本年度の最重要課題として位置づけ取組んで行くこととして

いますが、上半期においては新たな課題に多くの時間をとられたままでの推移でした。

法人全体の運営管理の充実や事業所間の連絡・最新情報の伝達・共有等のために通信ネットワークの充実と活性化に努めることや、障害者問題全般についての情報収集と提供、課題解決のための必要な活動は引き続き行いました。

本年度に検討を予定していた知的障害者通所授産施設については実施しないこととなりました。

(2) 福祉工場事業本部（東京都葛飾福祉工場、「東京都大田福祉工場」）

障害者の雇用を第一に考え、生産性を重視する事業としての福祉工場の運営を統括する事業本部として発足させましたが、本格的な活動には至っていない状況にあります。

ただし、葛飾工場と大田工場とも上半期事業においては前年度を大きく上回る経営結果を残しており、当面は各々の工場の経営を優先して考えることとしています。

(3) 社会就労事業本部（「コロニー中野」、「コロニー印刷所」、「コロニー東村山印刷所」、「コロニー東村山第二印刷所」、「コロニー東村山」、「青葉ワークセンター」、「青葉第二ワークセンター」、「青葉第三ワークセンター」）

生産性を求めながらも一定の福祉サービスを要求される社会就労施設

を統括する事業本部として本格的にその事業を開始しました。支援費に移行する施設のサービス水準を移行しない施設や相互利用の場においても提供することを基本的に統一した運営をしつつ、利用者に対する、「一般雇用への支援」や「労働者性の確保」を目指し、組織統合等の課題についても着手しました。

また、経営面では印刷事業を中心とする経営改善を早期に実現すべく取組みつつあり、支援費制度において求められる従業員の福祉的専門性を高める取組みにも本格的に着手しました。

この事業本部で唯一の入所施設となったコロニー東村山印刷所については入寮者の地域生活実現に向けて検討を開始しました。

(4) 福祉事業本部（知的障害者グループホーム「国分寺戸倉寮」、知的障害者グループホーム「東久留米第一、第二氷川台寮」）

3つのグループホームなど今後の居宅支援事業を視野に福祉を中心とした事業を統括する事業本部として、当面の課題解決に優先的に取組むことで事業を開始しました。

3つのグループホームを福祉的専門性にもとづく支援が行えるよう体制を整えることとしていましたが、上半期においては本質的な課題が明らかになったにとどまり、下半期においてはこれらの改善に向けて取組

むこととしています。

法人全体としての支援費制度等福祉諸制度の改革において求められる取組みやそのための従業員の福祉の専門性を高める取組み等には役割を発揮しつつあります。

(5) IT事業本部（「トーコロ情報処理センター事業部」、「トーコロ情報処理センター職能開発室」、「デジタルメディアセンター（含、アートブリテイ）」）

3つの公益事業を統括する事業本部として本年度は4年目を迎えました。

公益事業については、制度の枠にとられない自由な事業展開を基本とすることにしており、次年度に向けては国の新たな制度である「バーチャル工房」事業のモデルになるなど法人内外を含めた課題に先進的に取組みつつあります。そうした中であって当面は事業の安定と継続を課題とせざるを得ない事業状況が一部に顕在化しました。一定の補助金を見込むことができない事業であるだけに、下半期に向けては運営について事業毎に自律性を検証しつつ確実な事業運営が行なえるように取組み、併せて社会の先進的な就労（含む所得保障）のニーズに応えられるよう事業を行うこととしています。

(6) その他の事業

① 支援費制度への対応の事業
本年4月1日から実施された支援

費制度においては、関係事業本部・事業所での対応に加え、法人統一の事業として「支援費プロジェクト」の活動中での移行状況等の検証と、「教育研修委員会」の活動により「第三者評価」や「利用関係者からの評価」に応えられるものとするための取組みを行いつつあります。

② 障害者製作品の販売あつせん事業

身体障害者福祉法第25条に定めるわが国唯一の指定法人として葛飾福祉工場（製袋事業）およびトーコロ情報処理センター職能開発室ならびにデジタルメディアセンターを中心に事業を行いつつあります。この事業については指定法人としてこの法の趣旨が生かせるように関係諸団体等に対し働きかけを行いつつあります。

3、各事業の概況

(1) 上半期経営状況および本年度決算見込みは表1「総括損益推移表」に示すとおりですが、前年度に比べ大幅に好転したものとりました。

(2) 「在籍者の推移」は表2に示すとおり、全事業所合計で期首より2名増の65名（障害者比率54・1％）でした。

(3) 施設利用者に対する工賃は、全体として前年を上回るものでした。

表 1 総括決算損益推移表

(単位：千円)

		2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
1. 法人本部	中間決算	－32,641	－22,502	－31,273	－27,372
	決 算	－11,850	12,265	10,435	＊ 8,000
	損益累計	90,350	102,615	113,051	＊ 121,051
2. 福祉事業本部 (戸倉寮・氷川台第一寮・第二寮)	中間決算	181	－858	－2,476	6,606
	決 算	371	0	697	＊ 5,006
	損益累計	626	626	1,323	＊ 6,329
3. I T 事業本部	中間決算	－15,651	－7,661	－17,058	－5,288
	決 算	8,052	3,816	－9,040	＊ 8,428
	損益累計	29,668	33,484	24,444	＊ 32,872
(1) 職能開発室 (含事務局)	中間決算	1,146	567	924	951
	決 算	3,934	－315	1,092	＊ 1,743
	損益累計	3,934	3,619	4,711	＊ 6,454
(2) デジタルメディアセンター (含アートビリティ)	中間決算	－21,512	－11,153	－20,859	－9,958
	決 算	－4,047	241	－17,136	＊ 0
	損益累計	895	1,136	－16,000	＊ －16,000
(3) トーコロ情報処理センター事業部	中間決算	4,715	2,925	2,877	3,719
	決 算	8,165	3,890	7,004	＊ 6,685
	損益累計	24,839	28,729	35,733	＊ 42,418
4. 社会就労事業本部	中間決算	－10,664	－73,239	－64,852	－54,069
	決 算	581,447	－11,070	－299,878	＊ 12,000
	損益累計	－525	－11,595	－311,473	＊ －299,473
(1) コロニー印刷所 (含 コロニー中野)	中間決算	－9,439	－46,304	－51,420	－23,037
	決 算	408,782	－23,370	－283,612	＊ 0
	損益累計	－29,862	－53,232	－336,844	＊ －336,844
(2) コロニー東村山印刷所 (含 コロニー東村山・第二印刷所)	中間決算	－21,029	－30,648	－22,199	－35,654
	決 算	143,529	470	88	＊ 0
	損益累計	18,495	18,965	19,053	＊ 19,053
(3) トーコロ青葉ワークセンター (含 第二・第三ワークセンター)	中間決算	19,804	3,713	8,767	4,622
	決 算	29,136	11,830	－16,354	＊ 12,000
	損益累計	10,842	22,672	6,318	＊ 18,318
5. 福祉工場事業本部	中間決算	－112,431	－100,578	－76,013	59,442
	決 算	－6,663	－19,492	234,279	＊ 150,516
	損益累計	601,842	582,350	816,628	＊ 967,144
(1) 葛飾福祉工場	中間決算	－70,035	－2,513	－27,791	74,495
	決 算	－7,055	58,210	259,919	＊ 114,371
	損益累計	835,057	893,267	1,153,186	＊ 1,267,557
(2) 大田福祉工場	中間決算	－42,396	－98,065	－48,222	－15,053
	決 算	392	－77,702	－25,640	＊ 36,145
	損益累計	－233,215	－310,917	－336,558	＊ －300,413
合 計	中間決算	－171,206	－204,838	－191,672	－20,681
	決 算	571,357	－14,481	－42,932	＊ 183,950
	損益累計	721,961	707,480	643,973	＊ 827,923

＊ 見込額

表 2 在籍者の推移

自2003年4月1日 至2003年9月30日

(単位：人)

		前年度末 在籍者数	期 中 増 減		法人内異動を除く主な減員理由		上 期 末 在籍者数
			増 員	減 員	自己都合	疾病、その他	
	雇 用 就 労 者	119	1 (1)	7 (1)	1	5	113
	授産施設の利用者	183	25 (6)	11 (4)	6	1	197
	パ ー ト 等	7	1 (0)	3 (0)	0	3	5
	訓 練 生 等	21	6 (0)	9 (2)	3	4	18
障害がある就労者 計		330	33 (7)	30 (7)	10	13	333
障害がない就労者		283	16 (3)	17 (4)	11	2	282
合 計		613	49 (10)	47 (11)	20	15	615

(注) 1) () 内の数字は法人内異動をあらわします。

「本の紹介」

「一枚のはがきから」

庵原近之助さんは昭和51年から25年間コロニー印刷所を利用していた授産作業員です。重度の身体障害者でも版下制作を担当していました。メガネを頭に乘せライトテーブルに向かって丁寧に版下作業をやっている姿を今でも鮮やかに思い出します。庵原さんの新聞への投稿はコロニーでも有名で、私も当時リアルタイムで掲載誌を見ていました。印手留察徒（インテルサット＝人工衛星）がペンネームでしたが、宇宙へ思いを馳せた庵原さんの思いが込められていたのだなあと、この本を読んで初めてわかりました。庵原さんの部屋は新聞がいつもいっぱい、狭い部屋にうずたかく積んでありました。古いものは捨てたらしいのに、と内心思っていたのですが、さにあらず。この本を読んであらためて庵原さんにとって新聞がもたらす情報の大切さ、社会のあらゆる出来事を見逃すまいとする探求心をかなえてくれる、貴重な役割を持っていたのだとつくづく思います。この本を編集した妹さんの文章も大変よくできていて、庵原さんが編み出す膨大なミニコラムの背景を、当時の出来事を丹念に調べながら解説しています。「うん、そうそう。そうだったね」とうなずきながら一気に読ませてくれます。新聞への投稿だけでなく、いろんなところへ文章を書き、数々の賞も受賞されていたことも初めて知りました。クラッチをカチッ、カチッと鳴らしながら歩いてきて「これポストへお願いします」と今にも声が聞こえるようです。（コロニー印刷所 星 忍）



近代文芸社 発行
定価1,100円

「マンジュ」

当法人のコロニー印刷所に勤務する江副信子さんが小学校高学年から大人まで楽しめるジュニアファンタジーを銀の鈴社から出版しました。挿絵は、アートビリティ作家の太田利三さんです。



江副さんは、子供の頃から読書が好きで、やがて執筆活動を始め、1996年には、「神々の島マムダ」（福音館書店刊）で日本児童文芸家協会新人賞を受賞した実績をもちます。

【物語のあらすじ】

両親が行方不明になり主人公クーは養護施設で生活していくことになります。そこで友人を見出し、ともに運命を切り開いていく内容です。マンジュは施設で暮らす子供たちの守護霊です。一番弱く攻撃を受けやすい子供の助けになり、そっと秘密を明かしてくれるのです。マンジュは家族の複雑な過去や事情も知っているようです。そして行方不明になった両親がいるゼクラホギという異界へ、クーを誘っていきます。

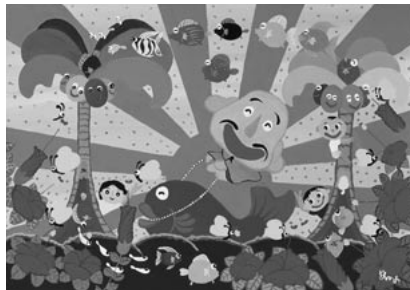
書店で注文していただくことになりますが、インターネットでも可能です。（定価 1,400円）

TRC（図書館流通センター）<http://www.trc.co.jp/>と、CBLの会 <http://www.ehon-cbl.com/>（カタログ中心で、主に図書館向けに販売）で、注文できます。詳しくは江副さんまで直接お問い合わせ下さい。ezoe@tocolo.or.jp



アートビリティ ギャラリー 8

『日の出』
有銘 寛秀



■アートビリティ

1986年障害者アートバンクとして設立。「才能に障害はない。障害者の才能は、アートの分野において健常者とかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。登録作家約400名、登録作品約4,000点、昨年1年間の使用実績は約330点、年間の作品応募は2,000点を超えます。2002年4月アートアートビリティと改称。

新年にふさわしい、華やかで楽しい作品をお届けします。
作者の有銘寛秀さんは、沖縄コロニーでデザインを担当しています。

そして、アートビリティの人気作家でもあります。

有銘さんの作品がアートビリティに送られてくると、こわもての審査員の顔が思わずほころびます。審査会の緊張した雰囲気
がほどこしてくるのです。

こんなふうには、有銘さんの作品には、思わず笑顔になってしま
うような楽しさが溢れています。見た人を愉快にさせずにはい
られません。

それが有銘さんの作品の魅力なのです。

アートビリティには、さまざまなタイプの作家がいて、作風も
それぞれ違います。

ほのぼのとした暖かい作品で人をなごませる作家もいれば、
力強いタッチで見るものを圧倒し、感動させる作家もいます。

そんな中で、見た人を愉快的気持ちにさせる作品を描く作家と
いうのは、

有銘さんしかないような気がします。

有銘さんは、アートビリティ作家の中でも飛びつきりユニーク
な作家なのです。

新しい年が皆さまにとって良い年でありますように。
有銘さんの『日の出』を見て、おおいに愉快になってください。

(アートビリティ事務局 岡嶋 明彦)

ご寄付のお願い

社会福祉法人東京コロニーでは、障害のある方への支援を就労や教育、生活の面から数多くの事業を行なっています。めざすことは、それらによる障害者の大きな意味での自立支援です。私共の事業を応援して下さる方（あるいは団体）からのご寄付を、下記を窓口で常時受け付けております。いただいたご寄付は、主に新しい事業の立ち上げや先進的な取り組みを行うための財源に充当させていただきます。より多くの方へのより質の高いサービスをめざす当法人の事業に対し、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。
(社会福祉法人への寄付は、税金が免除になります。ご寄付をいただいた際はそのための領収書を発行させていただきます。)

ご寄付受付 社会福祉法人東京コロニー 法人本部事務局（担当 加藤）
〒165-0023 東京都中野区江原町2-6-7 tel03-3952-6166 fax03-3952-6664



東京コロニー メインページ
<http://www.tocolo.or.jp/>

東京コロニーの ホームページ



コロニー印刷所
<http://www.tocolo.or.jp/nakano/>



デジタル メディアセンター
<http://www.tocolo.or.jp/dmc/>



IT事業本部事務局
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/it/>



コロニー東村山印刷所・コロニー東村山
コロニー東村山第二印刷所
<http://www.hig.tocolo.or.jp/>



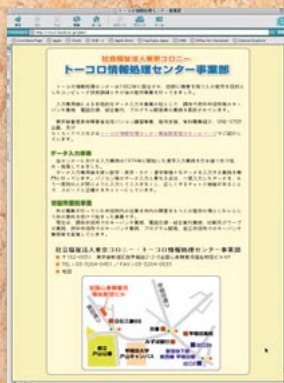
トーコロ情報処理センター職能開発室
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



アートビリティ 旧 障害者アートバンク
<http://www.artbility.com/index.html>



東京都大田福祉工場
<http://www.tocolo.or.jp/oota/>



トーコロ情報処理センター事業部
<http://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ青葉ワークセンター
<http://www.tocolo.or.jp/aoba/>



東京都葛飾福祉工場
<http://www.fireman21.net/>